

David B. Yoffie

David B. Yoffie is the Max and Doris Starr Professor of International Business Administration at Harvard Business School. He is a specialist in competitive strategy. He received a B.A. from Brandeis University and a Ph.D. from Stanford University. His most recent publications include *Competing on Internet Time* (1998) and *Competing in the Age of Digital Convergence* (1997). E-mail: dyoffie@hbs.edu

Michael A. Cusumano

Michael A. Cusumano is the Sloan Distinguished Professor of Management at the Massachusetts Institute of Technology's Sloan School of Management. He specializes in competitive strategy and technology management in the computer software, automobile, and consumer electronics industries. He received a B.A. degree from Princeton University in 1976 and a Ph.D. from Harvard University in 1984, and is the author or co-author of five books, including *Competing on Internet Time* (1998), *Microsoft Secrets* (1995), and *Japan's Software Factories* (1991). E-mail: cusumano@mit.edu

青山 幹雄 (正会員)

1980年岡山大学大学院工学研究科修士課程修了。同年富士通(株)入社。1995年より新潟工科大学情報電子工学科教授。ソフトウェア開発方法論、開発プロセスなどに興味を持つ。1993年情報処理学会研究賞受賞。

今中 良一

1966年京都大学工学部電気工学第2学科卒業。1969年松下電器産業(株)入社。VTR、ビデオディスク、光ディスク研究開発。1996年桜井健二郎賞(PD光ディスクシステム)受賞。映像情報メディア学会会員。

太田 昌孝 (正会員)

昭和34年生。昭和62年東京工業大学総合情報処理センター助手。博士(理学)。コンピュータグラフィックス、UNIX、計算の高速化、文字コード、DNS、マルチキャスト、QoS保証、超高速ルーティング等の研究に従事。

大山 芳史 (正会員)

1979年大阪大学大学院工学研究科博士前期課程修了。現在日本電信電話(株)コミュニケーション科学基礎研究所グループリーダー・主幹研究員。日本文音出力システム(JTOS)、漢字電報システム、機械翻訳システム(ALT-J/E, ALTFASH)の研究実用化に従事。著書「日本語語彙大系」(共著、岩波書店、1997)。IEEE、電子情報通信学会、言語処理学会、社会言語科学会各会員。E-mail: ooyama@eslab.kecl.ntt.co.jp http://www.kecl.ntt.co.jp/icl/mtg/members/ooyama/

上林 弥彦 (正会員)

昭和40年京都大学電子卒業。昭和45年同大学院博士課程修了。イリノイ大学リサーチアシソシエイト、京大助教授などを経て、昭和59年九大教授。平成2年京大教授。現在、情報学研究科社会情報学専攻に所属。平成7年ACM SIGMOD 貢献賞受賞。

工藤 育男 (正会員)

1957年生。1983年早稲田大学理工電気卒業。1985年同大学院修士修了。博士(工学)。CSK、ATR自動翻訳研究所、テキサスインスツルメンツを経て、ジャストシステム。自然言語、音声認識、CAI、知的財産に興味を持つ。

小井沼 博

1975年神奈川大学工学部電気工学科卒業。同年パイオニア(株)入社。1995年パイオニアシステムサイエンス(株)に出向。1998年同取締役コンサルテーション部長就任。現在、取締役コンサルテーション部長兼第一CT部長。

鹿内 正一

1982年青山学院大学理工学部卒業。同年パイオニア(株)入社。1995年パイオニアシステ

ムサイエンス(株)に出向。現在、コンサルテーション部SAP第1グループ課長。

穴戸 周夫

1948年生。1971年上智大学法学部卒業。同年日刊工業新聞社入社。出版局編集長、編集局編集委員。1997年よりフリーランス・ジャーナリスト、テラメディア代表。著書「マイクロソフトの真実」、「データウェアハウス」、「エンタープライズ・コンピューティング」など。

篠浦 文彦

東京理科大学卒業。鐘紡(株)情報システム事業部、英国Magne Networksを経て、日本システムズ(株)製品企画部長。1996~1998年The ATM Forum アジア地域教育WG議長。

関根 聡 (正会員)

Assistant Research Professor, New York University. 1987年東京工業大学応用物理学科卒業。同年松下電器東京研究所に入社。1990~1992年UMIST客員研究員。1992年UMIST計算言語学科修士。1994年からNYU, Computer Science Department, Assistant Research Scientist. 1998年Ph.D. 同年から現職。自然言語処理の研究に従事。コーパスベース、パーサー、分野依存性、情報抽出、情報検索等に興味を持つ。言語処理学会、人工知能学会、ACL各会員。E-mail: sekine@cs.nyu.edu http://cs.nyu.edu/cs/project/proteus/sekine

曾我 正和 (正会員)

昭和33年京都大学電子卒業。昭和35年同大学院修士修了。同年三菱電機入社。汎用コンピュータ、制御用コンピュータ、制御システムの開発に従事。情報電子研究所所長を経て、平成8年より現職。EC実証プロジェクトに参加しJapan-Netの評価を実施。

高原 久幸

1981年早稲田大学理工学部卒業。同年パイオニア(株)入社。1995年パイオニアシステムサイエンス(株)に出向。現在、コンサルテーション部SAP第2グループ課長。

鳥澤健太郎

1968年生。1992年東京大学理学部情報科学科卒業。1995年同大学院理学系研究科情報科学専攻博士課程退学。同年同大学院理学系研究科情報科学専攻助手。1998年より科学技術振興事業団さきさき研究21研究員兼任。計算言語学、自然言語処理の研究に従事。研究テーマ: 計算言語学、自然言語処理。言語処理学会会員。E-mail: torisawa@is.u-tokyo.ac.jp

苗村 憲司 (正会員)

1962年東京大学工学部電子卒業。博士(工学)。NTTで電子交換とデータ通信の研究開発に従事。1992年より現職。研究分野は情報通信システム、知的財産権等。

中尾 健治

1976年関西学院大学理学部化学科卒業。1978年同大学院理学研究科修士課程修了。1986年日本アイ・ピー・エム(株)入社。現在、同プロダクト・サポート&サービス事業部お客様相談センター専任マーケットリサーチ担当部長。

中野 幹生 (正会員)

1990年東京大学大学院理学系研究科相関理化学専攻修士課程修了。同年日本電信電話(株)入社。現在、同社コミュニケーション科学基礎研究所に所属。実際に動く音声対話システムの研究に従事。博士(理学)。

長島 幸男

1964年早稲田大学卒業。1969年パイオニア(株)入社。1974年同アメリカ法人駐在(2年間)。1989年同生産部長就任。1994年パイオニアシステムサイエンス(株)代表取締役社長就任。1997年富士通LS研幹事就任。同年STKユーザー会会長就任。

長野 徹 (正会員)

1996年筑波大学第三学群卒業。1998年同大学院工学研究科知能機能工学専攻修士課程修了。同年日本アイ・ピー・エム(株)入社。現在、東京基礎研究所に勤務。知識発見および自然言語処理の研究に従事。E-mail: nagano@trl.ibm.co.jp

那須川哲哉 (正会員)

1987年早稲田大学理工学部電子通信学科卒業。1989年同大学院修士課程修了。同年日本アイ・ピー・エム(株)入社。現在、同東京基礎研究所において自然言語処理、テキストマイニングの研究に従事。博士(工学)。E-mail: nasukawa@jp.ibm.com

浜田 高宏

昭和60年東京大学工・電気卒業。同年KDD入社。昭和62年同研究所。以来、HDTV、EDTV、放送級テレビ信号等の高能率符号化および画質評価に関する研究・開発に従事。その間、平成元年米国カリフォルニア工科大学よりMS取得(電気工学)。現在、KDD研究所画像通信グループ主任研究員。工博。

春野 雅彦 (正会員)

1991年京都大学工学部電気工学第二学科卒業。1993年同大学院修士課程修了。1998年奈良先端科学技術大学院大学博士後期課程修了。博士(工学)。1993年日本電信電話(株)入社。同コミュニケーション科学研究所研究員。1997年ATR人間情報通信研究所研究員。計算論的神経科学、機械学習に興味を持つ。Society for Neuroscience, ACL, 言語処理学会各会員。

藤田 澄男 (正会員)

1985年(株)日本コンピュータ研究所入社。1989年仏パリ第7大学DEA修了。1993年英国マンチェスター工科大学リサーチ・アシソシエイト。1995年より現職。1998年米国Claritech社リサーチ・サイエンティスト情報検索システムの研究・開発に従事。E-mail: Sumio\_Fujita@justsystem.co.jp

前川 徹 (正会員)

1955年生。名古屋工業大学情報工学科卒業。1978年通産省入省。機械情報産業局情報政策企画室長、JETRO New Yorkセンター産業用電子機器部長を経て、1997年から情報処理振興事業協会セキュリティセンター所長。

諸橋 正幸 (正会員)

1974年早稲田大学理工学研究科修士課程修了。同年日本アイ・ピー・エム(株)入社。1999年より多摩大学教授。現在に至る。自然言語処理、情報検索、テキストマイニングの研究に従事。E-mail: moro@oak.timis.ac.jp

安田 靖彦 (正会員)

昭和10年生。東京出身。昭和33年東京大学電気工学科卒業。昭和38年同大学院博士課程修了。同年東大生研助教授。昭和52年同教授。平成4年早大電子・情報通信学科教授。専門: 画像符号化・処理、通信方式。

訂正

前号(40巻3号)にて略歴に誤りがありました。修正して掲載するとともにお詫言申し上げます。

佐藤雄二郎 (正会員)

アルゴテクノス21代表取締役社長。1955年立教大学経済学部卒業。1981年日本ユニバック(株)取締役営業本部長。1984年(株)アルゴ21設立。代表取締役社長。1989年(株)アルゴテクノス21に商号変更。代表取締役社長。現在に至る。通産省産業構造審議会情報化人材対策小委員会委員。情報処理振興事業協会(IPA)技術委員会委員。(社)情報サービス産業協会副会長。情報処理学会アクレディテーション委員会委員。立教大学経済学部講師。E-mail: ysato@argotechnos.co.jp http://www.argotechnos.co.jp

が集団全体の行動に大きな影響を与えることを示唆しているだけでなく、これを実際の課題として挙げている点がある。つまり、本書は社会性など数式で表現することが難しいものも数式で扱っているが、さらに「感情」まで扱おうとしているのである。どのような結果が出るのかが、今後、非常に楽しみである（著者の最近の研究を追っていく必要があるだろう）。

以上より、本書は利得（効用）に基づくエージェントという切口ではあるが、これらをベースにしたマルチエージェントの特性を整理し、冒頭の問いに答えていると言える。たとえば、エージェント間の競争度合の変化による集

団利得の向上（第4章）、自己行為の影響の考慮による集団利得の向上（第5章）、知識取り引きにおける高価値知識の取得条件（第7章）、社会性を持つエージェントの投入による集団行為の変更（第10章）などが挙げられる。もちろん、本書で扱った切口以外でもマルチエージェントの特性は整理可能であるが、複雑系、マルチエージェント系に興味を持つ人には良書と言える。

[高玉圭樹 / (株) ATR 人間情報通信研究所]

編集者注：本誌の印刷スケジュールの都合により異なる号での掲載となりましたが、前号にも同一書籍に対する書評が掲載されております。両書評を比較していただき、参考にしていただけたらと思います。

## おひいすらん

今月から新しい年度に入りました。正月が私達の精神的な節目の時期であるのに対して、4月は国や多くの会社にとってと同じく、当会にとっての新しい事業年度のスタートに当たります。皆様の一層の活発なご参加とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。事務局員一同も会員の皆様により充実したサービスをご提供できるようがんばって参ります。

昨年度は当会にとっていろいろ実り多い年でした。例えば出版関係だけに目をやっても、まず会員の皆様にお届けしているこの会誌の編集が一新されました。皆様にはより親しみやすいものになったことと思います。論文誌では、研究会論文誌の発刊が開始されました。基幹論文誌の方も査読期間が短縮され、そのせいか掲載論文数が大幅に増加しました。また、会員の皆様にはまだ公開はされていませんが、会誌と論文誌をweb上で購読できるようにするという準備も着々と進んでおります。さらに、長年準備を続けてきた英文図書「日本のIT技術シリーズ」の第1、2巻が発行されるに至りました。

さて、今年度はどのような事業が展開されるかは、厳密には5月20日の総会での承認を待たねばなりません。あえて1つだけ挙げるとすれば当会の憲法である定款の改訂です。どのように改訂されるかは1月号の会告にご紹介してありますが、第2章の目的および事業の部分が当会のこれからの進路に対する決意を表しているといえます。すなわち、情報処理から情報技術への活動範囲の拡大、産業への寄与の明記、国際活動のIFIP以外への拡大などです。具体的な事業の展開を期待してください。

さて、私事になりはなはだ恐縮ですが、今月から私が学会事務局に入って2年目に入ります。そこで、事務局の側から見た学会ということについて一言述べてみたいと思います。会員として学会を見た場合には、私も40年の経験がありますが、やはり技術の成果が関心の中心だったと思います。若い頃は自分の仕事を発表し、年をとると後輩

のために研究発表の場を作るといった立場の変化はありませんが、技術を磨く場としての学会という見方は共通していたと思います。それに対し事務局員になりますと、学会を事業の場として見るようになっていきます。事務局員は技術の専門家でなく、学会から給料をもらっているのですから、これは当然といえば当然のことです。事業にとって大切なのはCustomer Satisfaction すなわちCSですが、学会も会員の皆様にとってのCSを重視して運営してゆく必要があります。40年の歴史を持っている当会ですから、すでに十分考え尽くされていることかもしれませんが、技術が進歩し学会の置かれている環境が変化すれば、CSも当然変わります。当会の会員の約7割が企業の会員であり、大メーカー以外にも新しいアイデアを持って参入してくるベンチャー企業がどんどん誕生してくることを考えると、企業の人にとってのCSは何かを明確にしてゆく余地があります。考えますに、当会は情報処理産業に携わる人たちに対し、職業人としての資格、生活を維持発展することに貢献してゆくことがCSにつながるのではないのでしょうか。その1つは、教育です。たとえ学校での技術教育が即戦力的なものに改革されたとしても、それは到底その後の30年なり40年通用するものではなく、生涯にわたった教育が必要です。我が国でも終身雇用が崩れて行く中で、生涯教育という面で当会が会員の皆様の頼りになる存在になることがCSの1つかと考えます。

ある講演会で工学院大学の橋本秀雄先生が、工学部は工学（という学問）の部と読むべきではなく、工（すなわちエンジニア）の学部と読むべきとお話をされました。当会も、情報処理学会の会ではなく、情報処理（技術者）の学会を目指すことが今後の課題でしょう。と、こんなことを1年経った今考えています。

(柳川隆之 / 事務局長)

## 会員の広場



会誌の本格的なリニューアルから1年が経過した今月は、A4版になり表紙デザインも変更となってやはり1年が経過した1月号に対して寄せられた、会員の皆さんからの声を中心に紹介します。ちなみに表紙デザインはこの号からまた新しくなっていますが、いかがでしょうか。

なお、このところモニタの方のみならず多くの会員の皆さんから、会誌/学会に対するご意見ご感想をいただけるようになっていますが、限られた誌面の中、できるだけさまざまなご意見を掲載できるよう、編集者の責任で要約させていただく場合があることを改めてご了承ください。また会員の広場では取り上げきれない提言などについては、学会活動への反映はもちろん、今後その有効な紹介の仕方も検討していきますので、引き続きお寄せください。

さて、まずは特集「静かで快適な生活を求めて—最近のアクティブコントロール技術—」に関するご意見です。

□ 制御もすぐれて情報技術であるとは考えていますが、この特集が情報処理技術の1分野である制御にもっと注目して欲しいということを感じたのであれば、その主張がはっきりと伝わってきません。制御技術を情報処理技術として見たとき、その特異性と問題点をはっきりさせ、入出力が単一であるのか複数なのか、扱う次元が1次元なのか多次元なのか、線形系なのか非線形系なのか、実時間性がどこまで要求されるのか、それによって制御技術として扱った方がよいのか高度の情報処理系と見た方がよいのか等、もう少し明快に解説して欲しかった。(藤井靖治)

□ 今月の特集は難しかった。特に「アクティブコントロール技術とは」の章は、概要を説明すべきところであるが、後半、式がたくさん出現し、フォローできなかった。もう少し、簡便な説明を求む。(匿名希望)

□ 最近よく耳にするDSPだが18年もの歴史があるとは思わなかった。携帯端末などに使用されているのはよく知られているが、最近ではさまざまな機種に応用されているようである。今回の特集はたいへん興味深く参考にはなったが、もう少し具体的に、どのような分野でどのように活用されているのかを載せて欲しかった。(石戸谷光昭)

□ これまでアクティブコントロールを応用したものでは、自動車の車内の騒音や振動を抑えるものしか知らなかったが、今回の特集で基本的な技術や他の応用技術について知ることができた。さらに今回は触れられていなかったが、音質などに関する主観評価実験なども行われていると思うので、その報告も付け加えて欲しかった(特にシミュレーション結果との関連について)。(川上好弥)

生活に密着したテーマとして興味を持っていただけたようなので、エディタのコメントにある通り第2弾、第3弾の企画で、皆さんのご希望に沿った、より深い内容が取り上げられることが期待されます。

解説「インターネットにおけるコンテンツ・レイティングとフィルタリング」には次のようなご意見をいただいています。

□ 日本にも具体的な活動があることは、初めて知った。有益であった。さっそくコンタクトしてみたい。(岡田昌康)

□ 決して読みやすい文ではなかったが、とかく我が国は安全に関しては無関心で問題が多い中で、いろいろ努力されているのにはエールを送りたい。ここで述べられている内容は実際にはどの程度効果があるかについては疑問もありますが、金融、外交、政治、社会面でますます悪質になってくる恐れが十分あります。(藤井靖治)

連載からは、IEEE-CSとの協定に基づく翻訳記事を取り上げた、ソフトウェア新時代「フリーウェアの台頭と変貌」に関して次のようなご意見をいただいています。

□ 訳も良いし、内容もすばらしかった。現状、目的、問題点がバランス良く論じられており、なによりも判断が理性的なのがよい。「フリーウェアLinuxがWindowsNTやUNIXなどの競合ソフトウェアのシェアに追いつくとは思われない」という点など、先月号の論評とは大いに雰囲気を変えている。(藤井靖治)

□ フリーウェアはネットワーク上からダウンロードしてきて使っていますが、あるアプリケーションについて市販の物と、フリーウェア(市販と同等機能)があれば個人的にはフリーウェアを使うと思う。想像だが、フリーウェアを作る人達は、こういう機能が欲しいとか、こういうアプリケーションが欲しいといった気持ちで作るのだと思うが、会社で作られているアプリケーションは、作る人達がそういう気持ちを持っていないので、最初の段階から差があるように思う。(匿名希望)

人気のインタラクティブ・エッセイの1月のテーマは「情報技術を社会常識にするためには」でした。

□ 皆さんまじめな議論で、面白いというより神妙にならざるを得ないようなものでした。1つだけ企業人であった者からすると、「情報技術を社会常識にするためには」、企業のトップはいかに立派な経営理念があったとしてもシステムなしには実現できないのだからシステムエンジニアを正當に評価すべきであるし、企業のシステムエンジニアは仲間内だけで専門用語で話してばかりいるのではなく経営と一体でなければならぬという意識を持ち、立派な成果があれば学界、業界あげて称揚してあげるべきであると、それぞれ頭を切り替えてもらう必要があると思います。(藤井靖治)

□ 最近、情報関連での事件が多い。我々も学生に対して、情報の扱い方、情報が諜報になっているのではないかなど、理論、理屈の情報教育ではなく、人間のコミュニケーションとしての立場での情報教育が必要であることを痛感する。このことは毎月少なくともページをさいて啓蒙していく必要があると同時に、情報処理という名の会誌であるのだから、その責任も十

分あると感じる。情報が人間の生活を脅かすものであってはならない。豊かにしていくためのモラルや知識をもっと会誌を通じて広報していただけるとありがたい。(匿名希望)

□さまざまな意見がありますが、教育現場の先生方の意見をもっと多く聞いてみたいように思います。メイリングリスト等でいくらか情報は入ってきますが、同じような事柄に興味関心を持った方々ばかりなので、もっと違う(情報教育に関心のない先生方もたくさんおられる)先生方の、情報教育(情報社会)に対する考え方というものも我々は聞いてみるべきではないでしょうか?(徳重一夫)

「教育論」についてはコラムでもたびたび取り上げられ読者のさまざまな反響もいただいています。エッセイの中でも言われているように「もっと議論を」重ねることが必要だと思います。新しいテーマの設定も含めて、インタラクティブ・エッセイのページ<URL:http://www.ipsj.or.jp/magazine/interessay.html>の案内に沿ってご意見をお寄せください。

道しるべでは、研究分野としても、また現実に電子メディア社会に生きる者の観点からも非常に興味深い「電子メディア社会の心理学」がテーマとして取り上げられました。

□先月号で今井教授が面白いと書かれていた『「めくるめき」の芸術工房』を求めて読んでみたのと印象が重なった。この本にも面白い記事がたくさんありました。最近の伝言電話事件のようにのんびりと眺めている状態ではないようです。もっと研究して啓蒙してください。(藤井靖治)

□参考になりました。最近、電子出版(webを含む)の論議が多くなりました。URLに関連した、URI(Uniform Resource Identifiers)やURN(Uniform Resource Name)を取り上げていただきたい。(小俣光夫)

□興味深く読ませていただきましたが、「道しるべ」というカテゴリの趣旨が若干不明確のように思います。他のカテゴリ(解説、コラム等)とどのようにすみ分けるのでしょうか。(匿名希望)

「道しるべ」の目指すところは98年1月号に掲載されていますが、簡単にまとめると「(特定分野/領域の)情報リ

ソースを総合的に提供できる記事」を目指したい、と考えています。これは、初学者がその分野を俯瞰し興味を持ってもらえるよう「解説」的な内容は当然に含んだ上で、その分野の研究に着手するにあたって必ず読んでおくべき教科書や論文をまとめた従来からある文献案内を加えるにとどまらず、どのような国際会議/研究コミュニティ/WWWページ/メイリングリスト/フリーソフトが存在しチェックすべきかといった総合的な情報リソースを提供するものです。ただし多くの方に読む気になっていただくためにはコンパクトにまとめることも大事な要素であるため、それぞれへのポイントの置き方はさまざまとなります。執筆者の皆さんにはたいへんご苦労ですが、今後もご協力をいただき、より多くの皆さんへの有意義な情報提供ができる記事を目指していきたいと考えています。今後とも、ご指摘ご意見あるいは企画案も含めてお寄せください。

その他、会誌への要望もいただいています。

□米国、欧州等における最新の情報処理研究動向を分野別に連載してください。(匿名希望)

□可能なら、書評や会議報告をもう少し増量していただけると嬉しいです。(匿名希望)

書評については、3月号、4月号で同一の書籍に対する評を掲載し比較していただくという新しい試みがされています。今後も新機軸の検討を含めて充実を図りますが、書評・会議レポートについては、会員の皆さんからの投稿も重要なソースとなっています。ぜひ機会がありましたら投稿(2月号に募集要項が掲載されています)をお願いいたします。

最後に、「編集室」において用語の表記基準について「デジタル」と「デジタル」を対象に問題提起がされています。個人的には「デジタル」を多用していますが、昨年8月号の本会誌に記事を書かせていただいたときは、より多くの読者に抵抗感なく受け入れられるだろうと判断し、あえて「デジタル」という表記を選択しました。会員の皆さんはどのようにお考えですか?ぜひ、ご意見をお聞かせください。

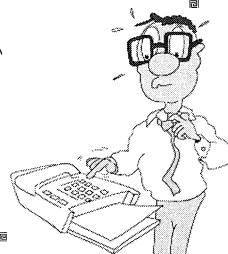
【本欄担当 中野恵一/書評・ニュース分野主査】

ご意見をお寄せください!!!

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、  
・記事に対する感想、意見  
・記事テーマの提案  
・会誌または学会に対する全般的な意見、提言  
・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言  
など、自由なご意見、ご感想をお待ちしております。  
前号に引き続き、今月号でも「道しるべ」に取り上げて欲しいテーマについてのご意見をお待ちしております。

掲載させていただいた方には薄謝を進呈いたします。掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがあります。あらかじめご了承ください。

応募先 〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F  
情報処理学会 会誌担当 E-mail:editj@ipsj.or.jp  
Fax(03)5484-3534 http://www.ipsj.or.jp/magazine/an4004.html



## IPJSJカレンダー

行事名	会場名	開催日	参加締切	論文/応募締切	掲載頁	担当
第93回マルチメディア通信と分散処理研究会	横須賀 リサーチパーク	4月16日(金)	当日のみ		40-3 会4p	研
第12回学協会共通問題に関する討論会	鹿島KIビル	4月21日(水)	4月10日(土)		40-3 会6p	事
東北支部 総会	東北大	4月21日(水)			40-4 会29p	東
第95回グラフィクスとCAD研究会	情報処理学会	4月22日(木)	当日のみ		40-3 会4p	研
東海支部 総会	愛知厚生年金 会館	4月27日(火)			40-4 会29p	海
第81回システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会	沖縄ホテル ムーンビーチ	5月6日(木) ～7日(金)	当日のみ		40-4 会4p	研
第68回アルゴリズム研究会	明大	5月10日(月)	当日のみ		40-4 会5p	研
九州支部 支部	九工大	5月11日(火)			40-4 会29p	九
北海道支部 情報処理北海道シンポジウム '99 (～Info-Hokkaido '99～)	北大	5月12日(水) ～13日(木)			40-2 会23p	北
北海道支部 総会	北大	5月13日(木)			40-4 会29p	北
第116回コンピュータビジョンとイメージメディア研究会	名大	5月13日(木)	当日のみ		40-4 会5p	研
関西支部 総会	関西情報センター	5月14日(金)			40-4 会29p	西
四国支部 総会	高知工科大	5月14日(金)			40-4 会29p	四
第83回ヒューマンインタフェース研究会	早大	5月14日(金)	当日のみ		40-4 会5p	研
第24回数理モデル化と問題解決研究会	電通大	5月14日(金)	当日のみ		40-4 会6p	研
第123回ソフトウェア工学研究会	情報処理学会	5月14日(金)	当日のみ		40-4 会6p	研
第76回ハイパフォーマンスコンピューティング研究会	東大	5月14日(金)	当日のみ		40-4 会6p	研
北陸支部 総会	富山県立大	5月14日(金)			40-4 会29p	陸
中国支部 総会	中国電力	5月14日(金)			40-4 会29p	中
第118回データベースシステム研究会	NTTデータ	5月17日(月)	当日のみ		40-4 会6p	研
第54回情報学基礎研究会	NTTデータ	5月17日(月)	当日のみ		40-4 会6p	研
第32回グループウェア研究会	情報処理学会	5月19日(水)	当日のみ		40-4 会7p	研
通常総会	ニューサテライト ホテル芝浦	5月20日(木)			40-4 会4p	総
第125回計算機アーキテクチャ研究会	東大	5月21日(金)	当日のみ		40-4 会7p	研
第52回コンピュータと教育研究会	東京外語大	5月21日(金)	当日のみ		40-4 会7p	研
第42回人文科学とコンピュータ研究会	ATR	5月21日(金)	当日のみ		40-4 会8p	研
第13回分散システム/インターネット運用技術研究会	東芝	5月21日(金)	当日のみ		40-4 会8p	研

行事名	会場名	開催日	参加締切	論文/応募締切	掲載頁	担当
第5回コンピュータセキュリティ研究会	情報処理学会	5月21日(金)	当日のみ		40-4 会8p	研
第4回電子化知的財産・社会基盤研究会	成蹊大	5月22日(土)	当日のみ		40-4 会9p	研
第116回知能と複雑系研究会	情報処理学会	5月24日(月)	当日のみ		40-4 会9p	研
システムLSIシンポジウム	中央大	5月25日(火)	5月7日(金)		40-3 会6p	研
第18回デジタル・ドキュメント研究会	情報処理学会	5月27日(木)	当日のみ		40-4 会9p	研
第131回自然言語処理研究会	千葉工大	5月28日(金)	当日のみ		40-4 会9p	研
第26回音声言語情報処理研究会	千葉工大	5月28日(金)	当日のみ		40-4 会9p	研
第9回モバイルコンピューティング研究会	情報処理学会	5月28日(金)	当日のみ		40-4 会9p	研
第30回音楽情報科学研究会	沖縄県立芸術大	5月29日(土) ～30日(日)	当日のみ		40-4 会10p	研
1999年並列処理シンポジウム JSP'99	つくば国際会議場	6月9日(水) ～11日(金)	5月28日(金)	平成10年 12月14日(月)	40-4 会23p	研
グラフィクスとCADシンポジウム	阪大	6月24日(木) ～25日(金)		2月26日(金) 必着	40-1 会15p	研
マルチメディア,分散,協調と モバイル(DICOMO)シンポジウム	ホテルシーモア	6月30日(木) ～7月2日(金)		3月8日(月) 必着	40-1 会15p	研
DAシンポジウム'99	遠鉄ホテル エンパイア	7月15日(木) ～17日(土)		3月10日(水) 必着	40-1 会16p	研
オブジェクト指向'99シンポジウム	東工大	7月21日(水) ～23日(金)		2月12日(金)	39-12 会13p	研
Fifth Annual International Computing and Combinatorics Conference (COCOON'99)	東京周辺	7月26日(月) ～28日(水)		2月8日(月)	39-11 本1186p	研
夏の情報教育シンポジウム	長野県坂井村	7月28日(水) ～30日(金)		4月30日(金) 必着	40-2 会22p	研
夏のプログラミング・シンポジウム 「21世紀の夢」	リフレ富岡	8月18日(水) ～20日(金)	6月30日(水)	5月30日(日)	40-4 会22p	事
東北支部 平成11年度電気関係学会 東北支部連合大会	八戸	8月19日(木) ～20日(金)		6月15日(火)	40-4 会29p	総
人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん1999)	国立民族学博物館	9月17日(金) ～18日(土)		5月7日(金) 必着	40-2 会22p	研
情報処理学会第59回全国大会	岩手県立大	9月28日(火) ～30日(木)		6月25日(金)	40-4 会26p	事
第5回ゲーム・プログラミング・ ワークショップ	箱根セミナー ハウス	10月15日(金) ～17日(日)		6月26日(土)	40-4 会27p	研
アジア太平洋ソフトウェア工学 国際会議(APSEC'99)	高松	12月7日(火) ～10日(金)		6月15日(火)	40-4 会28p	研
論文誌投稿締切		発行予定月		論文/応募締切	掲載頁	
論文誌: (研究会)「プログラミング(PRO-7)」				4月29日(木)	40-3 会5p	
論文誌特集号「マルチメディア通信プロトコル」		平成12年初頭		4月30日(金)	39-11 会14p	

記1) カレンダーは本会主催・共催の行事を会告既掲載分より抜粋しています。  
記2) 研究会の発表申込締切は開催日の90日前です。年間予定表および研究会発表申込書は2, 4, 8月号付録(会告)に掲載されています。  
記3) 担当欄の記号は次のとおりです。研: 調査研究, 事: 事業, 国: 国際, 編: 編集, 総: 総務, 経: 経理, 会: 会員,  
規: 情報規格調査会, 北: 北海道支部, 東: 東北支部, 海: 東海支部, 陸: 北陸支部, 西: 関西支部, 中: 中国支部, 四: 四国支部, 九: 九州支部。  
各行事についての問合せ等は担当までお願いします。  
記4) 掲載頁欄の記号は次のとおりです。本: 本誌, 会: 会告(付録), 全大: 全国大会プログラム(付録)

## 賛助会員入会のおすすめ

本学会では日々発展し続ける情報メディア分野の先駆者として、会員の方々を中心に、学界・官界および産業界のご支援を得て、調査研究、論文発表、国際会議開催などの活動を続けております。

お近くに、入会をご希望の方および企業・団体がおられましたらご紹介ください。

資 格：本会の目的に賛同される方または団体

会 費：1口 50,000円/年間 \*何口でも加入可

特 典：

1. 口数に応じて会誌「情報処理」の配布数、研究会登録の優遇制度があります。
2. 全国大会、研究発表会、セミナー、シンポジウムなどに正会員に準じて会員優待で参加できます。
3. 本学会編集図書が会員特価で購入できます。
4. 賛助会員名簿の無料配布、賛助会員名の会誌掲載、ホームページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) 公開。
5. 会誌「情報処理」(約30,000部/月) 付録会告に人材募集記事が掲載できます。

申込み、詳しい内容など詳細につきましては下記にご連絡ください。

照 会 先 (社) 情報処理学会 会員担当

### 賛助会員名簿

#### 【A～Z】

(株) CSK  
(株) FFC  
HOYA (株) デザインセンター  
JRC エンジニアリング (株)  
(株) KDD 研究所  
(株) NEC 情報システムズ  
NEC 東芝情報システム (株)  
NTT 移動通信網 (株)  
NTT コミュニケーションウェア (株)  
中国支社  
NTT コミュニケーションウェア (株)  
NTT コミュニケーション科学研究所  
NTT シスコム (株)  
NTT ソフトウェア (株)  
(株) NTT データ 関西支社  
(株) NTT データ 技術開発本部  
(株) NTT データ 九州支社  
(株) NTT データ 四国支社  
(株) NTT データ 中国支社  
(株) NTT データ 東海支社  
(株) NTT データ 東北支社  
NTT データ東北テクシス (株)  
NTT マルチメディアシステム総合研究所  
(株) PFU  
(株) SRA

#### 【あ 行】

(株) アーク情報システム  
アートシステム (株)  
アイアンドエルソフトウェア (株)  
(株) アイヴィス  
(株) アイ・エス・ピー  
(株) アイ・エヌ情報センター  
(株) アイシーエス  
愛知県警察本部  
愛知女子短期大学

(株) アイネス  
アイホン (株)  
旭化成マイクロシステム (株)  
(株) 朝日新聞社  
(株) 旭リサーチセンター  
アジソン・ウェスレイ・パブリッシャーズ・  
ジャパン (株)  
(株) アスキー  
アストロデザイン (株)  
アップルコンピュータ (株)  
(株) アドバンテスト  
(株) アルゴテクノス21  
(株) アルファシステムズ  
安藤電気 (株) 浜北事業場  
アンリツ (株)  
池上通信機 (株) 研究開発本部  
伊藤忠テクノサイエンス (株)  
岩崎通信機 (株)  
(株) 岩通アイセル  
インターナショナル・システム・サービス (株)  
(株) インテック  
インテル (株)  
(株) エイ・ティ・アール音声翻訳通信研究所  
(株) エイ・ティ・アール知能映像通信研究所  
(株) エヌ・ケー・エクサ  
(株) エヌジェーケー  
エヌ・ティ・ティ・データ・クリエイション (株)  
エヌ・ティ・ティ・データ・テクノロジ (株)  
(株) エム・アール・システム研究所  
(株) オーエスケイ  
オークマ (株)  
大倉電気 (株) 和光技術センター  
(財) 大阪科学技術センター  
大阪ガス (株)  
(株) オオバ  
(株) オーム社  
岡山日本電気ソフトウェア (株)  
(株) 沖ソフトウェア中国  
沖通信システム (株)

(株) 沖テクノシステムズラボラトリ  
沖電気工業 (株)  
(株) 沖北陸システム開発  
(株) 小野仁  
オムロン (株) 京都研究所  
オムロンソフトウェア (株)  
オムロンソフトウェア (株) 大阪事業所  
オリンパスシステムズ (株)

#### 【か 行】

(株) 開発計算センター  
科学技術振興事業団科学技術情報事業本部  
カスタム・テクノロジー (株)  
(学) 片柳学園日本工学院 専門学校  
(学) 片柳学園日本工学院 八王子専門学校  
カテナ (株)  
兼松エレクトロニクス (株) システム開発本部  
関西電力 (株)  
(財) 機械振興協会  
キヤノン (株) 小杉事業所情報メディア研究所  
キヤノン (株) 中央研究所  
キヤノンソフトウェア (株)  
九州産業大学  
(財) 九州システム情報技術研究所  
九州電力 (株)  
(株) 京三製作所  
(株) 京セラディーディーアイ未来通信研究所  
(株) 共立  
共立出版 (株)  
(株) 協和エクシオ  
近畿通信建設 (株)  
近畿日本鉄道 (株)  
近畿日本ツーリスト (株)  
原電情報システム (株)  
興銀システム開発 (株)  
(株) 構造計画研究所  
(株) 高知電子計算センター  
神戸日本電気ソフトウェア (株)  
(株) 国際電気通信基礎技術研究所

国士舘大学 情報科学センター  
国立国会図書館  
コムベックス (株)  
(株) コンテック  
(株) コンピュータグラフィックス  
(株) コンピュータ・テクノロジー・インテグレイタ

## 【さ 行】

(株) サイエンスハウス  
(株) サイエンティア  
サクシード (株)  
(株) さくら総合研究所  
三協印刷 (株)  
(株) 三協精機製作所  
産業図書 (株)  
サンデンシステムエンジニアリング (株)  
三美印刷 (株)  
三洋電機 (株)  
三洋電機 (株) 研究開発本部  
(株) 三和銀行  
三和システム開発 (株)  
(株) シーイーシー  
(株) シーエーシー  
(株) ジェイアールシステム・エンジニアリング  
(株) ジェイアール東日本情報システム  
(株) ジェーエムエーシステムズ  
(株) 四国総合研究所 電子技術研究所  
四国電力 (株)  
四国日本電気ソフトウェア (株)  
システム・エンジニアリング・サービス (株)  
システム・オートメーション (株)  
(株) システム・ラボ  
(株) 次世代情報放送システム研究所  
シチズン時計 (株)  
(株) 島津製作所  
シャープ (株) 技術本部  
シャープ (株) 通信システム事業本部  
(株) ジャステック  
(株) ジャストシステム  
(株) ジャパンテクニカルソフトウェア  
(財) 情報科学国際交流財団  
(株) 情報技術コンソーシアム  
(社) 情報サービス産業協会  
情報処理振興事業協会 技術センター  
(財) 情報処理相互運用技術協会  
(株) しんきん情報システムセンター  
新日鉄情報通信システム (株)  
新日鉄情報通信システム (株) 中部支社  
(株) 数理計画  
住商情報システム (株)  
住友電気工業 (株) 大阪製作所  
駿河台学園  
セイコーインスツルメンツ (株)  
(株) 西武洋紙店  
積水化学工業 (株)  
セコム (株) セコムIS 研究所  
セントラル・コンピュータ・サービス (株)  
(株) 全農情報サービス  
桑園学園札幌ソフトウェア専門学校  
ソード (株)

ソニー・テクトロニクス (株)  
(株) ソフトウェア  
(株) ソフトウェアコントロール  
(株) ソフトウェアコントロール 関西支社  
(財) ソフトウェア情報センター  
ソフトウェア特許情報センター  
ソフトウェア生産技術研究所 (株)

## 【た 行】

拓殖大学  
(株) 竹中工務店  
立山合金工業 (株)  
大同信号 (株)  
ダイナミックシステム (株)  
大和ハウス工業 (株)  
(株) 田村電機製作所  
(株) 中央コンピュータシステム  
中央コンピュータシステム (株)  
中国情報システムサービス (株)  
中国電機製造 (株)  
中国電力 (株)  
中国日本電気ソフトウェア (株)  
中信情報システム (株)  
中電技術コンサルタント (株)  
中電コンピュータサービス (株)  
中部ソフト・エンジニアリング (株)  
中部電力 (株)  
中部日本電気ソフトウェア (株) 長銀情報システム (株)  
千代田情報サービス (株)  
通研電気工業 (株)  
都築通信技術 (株)  
(株) ティージー情報ネットワーク  
ティーディーシーソフトウェアエンジニアリング (株)  
(株) デジタル・ビジョン・ラボラトリーズ  
帝人 (株) システム技術研究所  
(財) データベース振興センター  
テック情報 (株)  
鉄道情報システム (株)  
(財) 鉄道総合技術研究所  
(株) デュオシステム  
(株) 電産  
(株) デンソークリエイト  
(財) 電力中央研究所 情報研究所  
東海ソフト (株)  
東海旅客鉄道 (株)  
(株) 東京システム技研  
東京通信ネットワーク (株)  
東京電力 (株)  
東京都立大学  
(株) 東京三菱銀行  
東光 (株)  
東光精機 (株)  
東芝アドバンスシステム (株)  
東芝エンジニアリング (株)  
(株) 東芝 青梅工場  
(株) 東芝 中部支社  
(株) 東芝 那須工場  
東芝情報システム (株)  
東芝テック (株)

東芝プロセスソフトウェア (株)  
東芝マイクロエレクトロニクス (株)  
東電コンピュータサービス (株)  
東電ソフトウェア (株)  
(学) 東都学園東都コンピュータ専門学校  
東北コンピュータ・サービス (株)  
東北電力 (株)  
東北電力 (株) 研究開発センター  
東北日本電気ソフトウェア (株)  
東北リコー (株)  
東洋通信機 (株) 中央研究所  
(株) 東和システム  
(株) トーエネック  
(株) トキメック  
(株) トステムズ  
トッパン・フォームズ (株)  
凸版印刷 (株) 総合研究所  
(株) トヨコムシステムズ  
トヨタ自動車 (株)  
(株) トヨタソフトエンジニアリング  
(株) 豊田中央研究所

## 【な 行】

名古屋学院大学  
(株) ナブラ  
(株) ニコン  
日揮 (株)  
日揮情報システム (株)  
(株) 日興ビジネスシステムズ  
日産デジタルプロセス (株)  
日商エレクトロニクス (株)  
日通工 (株)  
日鉄日立システムエンジニアリング (株)  
日本アルゴリズム (株)  
日本鋼管 (株)  
エンジニアリング技術総括部  
日本コムシス (株)  
日本システム技術 (株)  
(株) 日本システムディベロップメント  
日本事務器 (株)  
(株) 日本情報システムサービス  
(株) ニッポンダイナミックシステムズ  
日本テレコム (株)  
日本電気 (株)  
日本電気 (株)  
技術企画部三田技術情報センター  
日本電気移動通信 (株) 開発統括部  
日本電気コンピュータシステム (株)  
日本電気ソフトウェア (株)  
日本電気電力エンジニアリング (株)  
(株) 日本電気特許技術情報センター  
日本電気フィールドサービス (株)  
日本電子開発 (株)  
日本放送協会  
日本放送協会 放送技術研究所  
日本ラッド (株)  
日本アイ・ピー・エム (株)  
日本アイ・ピー・エム (株) 東日本支社  
日本アイ・ピー・エム (株) 広島営業部  
日本インターシステムズ (株)



(株) 日本科学技術研修所  
日本銀行  
(株) 日本経済新聞社  
日本ケイデンス・デザイン・システムズ社  
日本原子力研究所  
日本航空電子工業 (株)  
(株) 日本交通公社  
(株) 日本コンピュータ研究所  
日本サン・マイクロシステムズ (株)  
日本サン・ソフト  
日本システム開発 (株)  
(財) 日本情報処理開発協会  
中央情報教育研究所  
日本情報通信コンサルティング (株)  
日本シリコングラフィックス (株)  
日本信号 (株) 与野事業所  
日本制御 (株)  
(株) 日本総合研究所  
日本タイムシェア (株)  
NTSシステム総合研究所  
(株) 日本ダイナスクラブ  
日本データパシフィック (株)  
(社) 日本電子機械工業会  
日本電子計算 (株)  
日本電子計算機 (株)  
(社) 日本電子工業振興協会  
日本電信電話 (株) 技術部  
(株) 日本トラフィックコンピュータセンター  
日本ナレッジインダストリー (株)  
日本ビクター (株)  
日本ビジネスシステムズ (株)  
日本ヒューレット・パッカード (株)  
日本無線 (株)  
日本ユニシス (株)  
日本ユニシス (株) 関西支社  
日本ユニシス・ソフトウェア (株)  
(株) 日本旅行法人営業本部  
(株) ニューメディア総研  
農林中央金庫  
(株) ノス  
(株) 野村総合研究所

## 【は 行】

萩原電気 (株)  
バイオニア (株)  
浜松ライフラインリサーチセンター  
(株) ビーコンインフォメーションテクノロジー  
ビーコンシステム (株)  
日立公共システムエンジニアリング (株)  
(株) 日立サイエンスシステムズ  
日立システムエンジニアリング (株)  
日立システムエンジニアリング (株)  
九州事業所  
(株) 日立情報システムズ  
(株) 日立情報制御システム  
(株) 日立情報ネットワーク  
(株) 日立製作所 公共情報事業部  
(株) 日立製作所 システム開発研究所  
(株) 日立製作所 システム開発本部  
(株) 日立製作所 情報事業企画本部

(株) 日立製作所 中国支社  
(株) 日立製作所 東北支社  
日立西部ソフトウェア (株)  
日立ソフトウェアエンジニアリング (株)  
日立中国ソフトウェア (株)  
日立電子 (株)  
日立電子テクノシステム (株)  
日立東北ソフトウェア (株)  
(株) 日立ビジネス機器  
(株) 日立マイクロソフトウェアシステムズ  
ヒューレット・パッカード日本研究所  
(株) フォーカスシステムズ  
福岡大学 総合研究所  
(株) フジキカイ 名古屋工場  
富士通 (株)  
富士通 VLSI (株)  
(株) 富士通愛媛情報システムズ  
富士通エフ・アイ・ピー (株)  
(株) 富士通高知システムエンジニアリング  
富士通コミュニケーション・システムズ (株)  
(株) 富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ  
(株) 富士通ソーシアルシステムエンジニアリング  
(株) 富士通中国システムズ  
(株) 富士通中部システムズ  
(株) 富士通テクノシステム  
富士通テン (株)  
富士通電装 (株)  
(株) 富士通東北システムエンジニアリング  
(株) 富士通徳島システムエンジニアリング  
(株) 富士通北陸システムズ  
フジテック (株)  
富士電機システムクリエイト (株)  
(株) 不動産計画評価研究所  
船井電機 (株)  
古野電気 (株)  
ブラザー工業 (株)  
(株) ブリッジ  
(株) ベスト・テクノロジー  
北陸電力 (株)  
北陸日本電気ソフトウェア (株)  
(株) 北海道ジェイ・アール・システム開発  
北海道ソフト・エンジニアリング (株)  
北海道東海大学 電子計算センター  
(財) 堀情報科学振興財団  
(株) 堀場製作所

## 【ま 行】

マイクロソフト (株) 研究開発本部  
松下技研 (株)  
松下寿電子工業 (株) 総合技術開発センター  
松下システムエンジニアリング (株)  
松下システムエンジニアリング (株)  
札幌支社  
松下情報システム (株)  
松下通信工業 (株)  
松下電器産業 (株)  
松下電器産業 (株) AVC 商品開発研究所  
松下電器産業 (株)  
マルチメディアシステム研究所  
(株) 松下電器情報システム 名古屋研究所

(株) 松下電器情報システム 広島研究所  
松下電子工業 (株) 半導体事業本部  
松下電送システム (株)  
マツダ (株)  
丸善 (株)  
(株) 三城  
三井情報開発 (株)  
三井造船システム技研 (株)  
三菱重工業 (株) 神戸造船所  
三菱スペース・ソフトウェア (株)  
三菱地所 (株)  
三菱電機 (株)  
三菱電機コントロールソフトウェア (株)  
三菱電機システムウェア (株)  
三菱電機メカトロニクスソフトウェア (株)  
三菱プレジジョン (株)  
三菱マテリアル (株) 総合研究所  
宮城日本電気 (株)  
武蔵野美術大学  
(株) メッセ21  
森長電子 (株)

## 【や 行】

(株) 安川電機  
安田工業 (株)  
ヤマハ (株)  
郵政省郵政研究所  
(株) 横河技術情報  
横河デジタル・コンピュータ (株)  
システム事業統括本部  
横河電機 (株) 技術企画部  
吉富製薬 (株)

## 【ら 行】

(株) 菱化システム  
菱友計算 (株) 中部支社

## 【わ 行】

ワイ・エス・テクノシステム (株)

以上421社 (平成11年3月31日現在)

## 平成11年度入会予定

FJBWebテクノロジー (株)  
(株) アイエックス  
イーオス (株)  
エヌ・ティ・ティ・メディアサプライ (株)  
関電情報システム (株)  
(株) 近畿コンピュータコンサルタント  
(株) コア中四国カンパニー  
(株) セゾン情報システムズ  
東芝システムテクノロジー (株)  
テロック (株)  
平和情報センター

以上11社

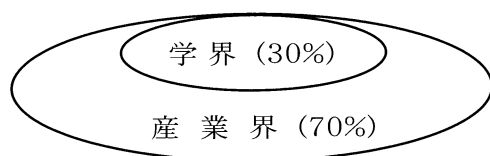


## 入会のおすすめ

### ご存知ですか！

情報分野のパイオニアとして40年近くの歴史を持ち、国内、海外の活動を通じ産学約3万人の会員が、学術・技術の向上に日々研鑽している学会が **情報処理学会** です。

#### ● 会員の構成は



となっており、本会での活動を通して、他の業種・企業の技術者、学界の研究者、学生、海外の学協会など多くの人々と交流する機会が得られ、多種多様な商業誌では得られない情報を得ることができます。

本会はまさに、**情報と出会いの場** でもあります。

- ・企業の技術者、研究者にとって…………… 学界での研究成果、他の企業の技術動向、標準化の最新情報、海外の動向などが分かります。
- ・会社の技術管理者にとって…………… 技術動向が分かり、次の施策に反映できます。また、会社の知名度を上げ、学生採用がやり易くなります。
- ・学界の研究者にとって…………… 産業界が何を求めているかが分かり、次の研究テーマを見つけることができます。他の大学や企業の研究が分かり、自らの研究の位置づけが明確になります。
- ・学生にとって…………… 論文、研究発表の場が充実しています。産業界のニーズが肌で感じられ、海外の情報入手、関連学協会などとの交流を通して進むべき方向、学習意欲が向上します。

## 21世紀に向け、入会のチャンスです！ 今すぐアクセスを！

#### ● ご入会されますと。。。。

1. 会誌「情報処理」(月刊)が無料配布されます。
2. 論文誌への投稿、研究会への研究発表・登録(研究報告配布)ができます。
3. 会員優待で全国大会に論文発表、各種行事に参加できます。
4. 本会編纂図書が会員特価で購入できます。
5. 電気・電子情報通信・照明・映像情報メディア各学会に入会する際、当学会発行の在会証明書を添付すると入会金の免除が受けられます。
6. ACM会費が20%、IEEE会費が10%割引になります。

#### [会費]

正会員	9,600円	入会金2,000円
学生会員	4,800円	免除
賛助会員	50,000円/1口	

申込み/照会先 (社) 情報処理学会 会員担当  
 〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F  
 E-mail: mem@ipsj.or.jp  
 Tel (03)5484-3535 Fax (03)5484-3534

# 入会申込書(正会員・学生会員)

申込日: 年 月 日

● 会員種別		<input type="checkbox"/> 正会員 <input type="checkbox"/> 学生会員		卒業予定年月: 年 月		○ 専門分野コード表	
● 氏名(漢字)						○ 専門分野コード表	
● 氏名(カナ)						○ 専門分野コード表	
● 氏名(ローマ字)						○ 専門分野コード表	
性別		<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女				○ 専門分野コード表	
生年月日		年 月 日				○ 専門分野コード表	
機関誌発送先		<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 勤務先(個人) <input type="checkbox"/> 勤務先(一括)		グループコード:		○ 専門分野コード表	
○ 自宅	住所	〒				○ 専門分野コード表	
	Tel					○ 専門分野コード表	
	Fax					○ 専門分野コード表	
	E-mail					○ 専門分野コード表	
○ 勤務先・在学学校	住所	〒				○ 専門分野コード表	
	Tel			(内線)		○ 専門分野コード表	
	Fax					○ 専門分野コード表	
	E-mail					○ 専門分野コード表	
名称・事業所名・所属・職種・役職						○ 専門分野コード表	
事務局からの案内		<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 否				○ 専門分野コード表	
関連学協会の案内		<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 否				○ 専門分野コード表	
他学会在会		<input type="checkbox"/> 電子情報通信学会 <input type="checkbox"/> 電気学会 <input type="checkbox"/> 照明学会 <input type="checkbox"/> 映像情報メディア学会 <input type="checkbox"/> その他		会員No. 会員No. 会員No. 会員No.		○ 専門分野コード表	
* 上記4学会に在会の方は、「在会証明書」を添付してください。入会金が免除になります。						○ 専門分野コード表	
○ 卒業学校名				卒業年月		○ 専門分野コード表	
入会の動機						○ 専門分野コード表	
連絡事項						○ 専門分野コード表	
バックナンバー		<input type="checkbox"/> 会誌: 月号~ <input type="checkbox"/> 論文誌: 月号~				○ 専門分野コード表	
注: 入会時にお支払の会費・論文誌購読費はバックナンバー希望月から充当します。バックナンバーを希望しない場合は入会承認の翌月号から配布となります。						○ 専門分野コード表	
送金(予定)日		月 日		入会時費用一覧		○ 専門分野コード表	
金額内訳				正会員		学生会員	
入会金		¥		入会金: ¥2,000		入会金: 免除	
会員費		¥		正会員費: ¥9,600		学生会員費: ¥4,800	
論文誌購読費		¥		論文誌購読費: ¥6,930 (希望購読)			
合計		¥					
送金方法		<input type="checkbox"/> 郵便振替00150-4-83484 <input type="checkbox"/> 第一勧業銀行虎ノ門支店 (普) 1013945 <input type="checkbox"/> 東京三菱銀行虎ノ門公務部(普) 0000608 <input type="checkbox"/> 現金書留 <input type="checkbox"/> 現金持参				○ 専門分野コード表	
** 入会後の会費等の振込には、「口座自動振替制度」を是非ご利用ください。						○ 専門分野コード表	
必要書類		<input type="checkbox"/> 請求書 通 <input type="checkbox"/> 納品書 通 <input type="checkbox"/> 見積書 通 <input type="checkbox"/> 郵便振替用紙				○ 専門分野コード表	
紹介者		正会員No. _____ 氏名 _____				○ 専門分野コード表	

〔記入要領〕

1. □欄は該当するものにチェックしてください。
2. 英数字ははっきりわかりやすく記入してください。  
難解なものには(フリガナ)等を付けてください。  
例. 英文字のO(オ)と数字の0(ゼロ), 英文字のI(イ)と数字の1(イチ)
3. ○は名簿掲載選択項目ですので、掲載不可の場合は、○の上に×を記入してください。  
●は名簿掲載必須項目です。
4. 性別, 生年月日, 卒業学校名・卒業年月については, 必須データではありませんが, なるべくご記入ください。
5. 紹介者がいない場合は空白のままです。

# 会 員 募 集 中

## ★ 主な活動内容

- ・ 機関誌の発行 会誌「情報処理」(月刊)  
「情報処理学会論文誌」(月刊)
- ・ 全国大会 年2回開催(春, 秋) CD-ROM論文集発行
- ・ 調査・研究 領域(コンピュータサイエンス, 情報環境, フロンティア)  
所属の研究会, 研究グループによる発表会・シンポジウム  
等の開催  
調査委員会による特定課題の調査研究
- ・ 情報処理教育委員会 カリキュラム, アクレデテーション各委員会の開催
- ・ 国際交流 IFIP, SEARCCに加盟. ACM, IEEE, KISSと提携
- ・ 標準化 ISO/IEC JTC1 情報技術の国際標準開発に参加

情報に関心をお持ちの方でしたら, どなたでもご入会いただけます。  
ホームページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) からの入会が可能です。

## ★ 会 費

	入会金	会 費
正 会 員	2,000 円	9,600 円
学 生 会 員	免 除	4,800 円
海 外 会 員		5,700 円
賛 助 会 員	1口	50,000 円
国内購読員	1口	28,224 円 (機関誌年間セット購読)

## ★ 会員特典

会誌「情報処理」の無料配布  
「情報処理学会論文誌」購読費会員特価  
研究会に登録(研究報告無料配布), 研究発表ができます  
全国大会, セミナー, シンポジウム等各種行事の参加費会員価格  
正会員の学術情報センター情報検索サービスの利用可  
ACM会費が20%, IEEE会費が10%割引になります  
本学会編纂図書が会員価格で購入できます



社団法人 情報処理学会  
Information Processing Society of Japan

〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル 7F  
TEL 03-5484-3535 FAX 03-5484-3534  
E-mail: [mem@ipsj.or.jp](mailto:mem@ipsj.or.jp)

# 情報処理学会の編集による定評あるハンドブック

新版

## 情報処理ハンドブック

B5判・2058頁・本体 43700円(税別)

コンパクト版

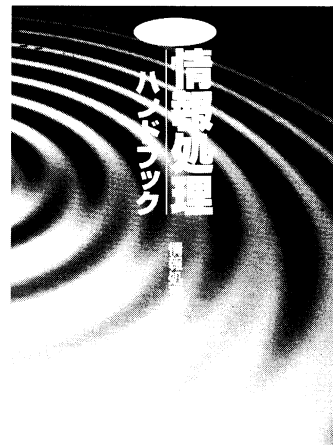
## 情報処理ハンドブック

A5判・2058頁・本体 15000円(税別)

情報処理、情報科学、情報工学に関する最も権威あるハンドブックとして、情報処理学会のオーソリティが総力をあげ編集したハンドブックです。コンパクト版は「新版・情報処理ハンドブック」を縮刷したものです。

目次

- 1編 アルゴリズムとデータ構造
- 2編 ハードウェア
- 3編 計算機アーキテクチャ
- 4編 オペレーティングシステム
- 5編 プログラミング
- 6編 ソフトウェア工学
- 7編 情報の基礎的解析・分析
- 8編 データベース
- 9編 コンピュータネットワーク
- 10編 ヒューマンインタフェース
- 11編 パターン処理
- 12編 人間の協調と感性処理
- 13編 人工知能
- 14編 自然言語処理
- 15編 情報システム
- 16編 情報処理教育
- 17編 規格と資料



新刊!

## エンサイクロペディア 情報処理 '98/'99

A5判・588頁 本体 3800円(税別)

情報処理の理論・技術の中から最新の話題、今後の重要な技術展開などを中心にテーマを選択し、章配列や章内の流れを工夫し、各節を見開きの読切りスタイルにするなど、使いやすく読みやすい構成となっています。Windows95環境やインターネットなどの普及に対応して、これらに関連した記述を充実させ、手元に一冊あると便利なコンパクトサイズの百科事典です。

目次

- 1章 身近になったコンピュータ&ネットワーク
- 2章 ヒューマンインタフェース
- 3章 コンピュータネットワーク
- 4章 プロダクティビティツール
- 5章 マルチメディア
- 6章 オブジェクト指向
- 7章 人工知能
- 8章 エキスパートシステム
- 9章 データベース
- 10章 プログラミング
- 11章 ソフトウェア工学
- 12章 オペレーティングシステム
- 13章 コンピュータアーキテクチャ
- 14章 情報セキュリティ



## スーパーパソコン用語事典 パソペディア

A5判・428頁・本体 3398円(税別)

パソコン用語を中心にワークステーションやネットワーク、マルチメディア用語も含めユーザ向けに解説した用語事典です。必要なテーマを総合的に理解できるように中項目ごとに用語を配列し解説が充実しています。

# 情報処理学会 第59回全国大会 講演発表募集!!

## ●講演申込締切日

平成11年6月25日(金) 必着

## ●講演論文締切日

平成11年8月6日(金) 必着

### ●講演募集内容

- 一般講演
1. アーキテクチャ
  2. ソフトウェア科学・工学
  3. 人工知能と認知科学
  4. データベースとメディア
  5. ネットワーク
  6. インタフェース
  7. コンピュータと人間社会
  8. その他

#### デモセッション

#### 特別セッション

1. 情報家電とホームネットワーク
2. 夢を与えるデジタルコンテンツとグラフィクス
3. 次世代インターネット

### ●講演参加費

正会員	9,450円
学生会員	5,250円
一般非会員	19,950円
学生非会員	9,450円

(電気、照明、電子情報通信、映像情報  
メディアの各学会員の方は会員価格)

会場: 岩手県立大学

会期: 平成11年9月28日(火)~30日(木)

照会先: (社) 情報処理学会 事業係

<http://www.ipsj.or.jp> E-mail: [jigyo@ipsj.or.jp](mailto:jigyo@ipsj.or.jp)

〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル 7F

TEL. 03-5484-3535 FAX. 03-5484-3534

**ご意見を  
お寄せください！**

【できるだけ月末までにお出しく下さい】

宛先 (社) 情報処理学会 モニタ係 (下記のいずれからも送付できます)  
Fax(03)5484-3534 E-mail:editj@ipsj.or.jp (eコードでお答えください)  
http://www.ipsj.or.jp/magazine/an4004.html  
〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F

1. あなたはモニタですか?  
a. はい b. いいえ .....(eコード1- )

2. **今月号(1999年4月号)**の記事についてのあなたの評価をご記入ください。  
(あなたの評価は年度のBest Author賞選定の際の資料となります。評価は以下の5段階評価をお願いします。)  
a...大変参考になった b...よい c...普通、どちらとも言えない d...悪い e...読んでいない

**【特集】** フィールドを広げる自然言語処理

- 自然言語処理を利用した情報の検索・分類へのアプローチ .....(eコード2-1- )  
テキストマイニング .....(eコード2-2- )  
話がはずむ音声対話システム .....(eコード2-3- )  
テキストからの情報抽出 .....(eコード2-4- )  
対訳テキストから辞書を自動生成 .....(eコード2-5- )  
高機能な構文解析器に向けて .....(eコード2-6- )

**【事例】**

- ERPパッケージ導入の考え方と実際 .....(eコード2-7- )

**【トップインタビュー】**

- 21世紀に向けた情報ソフト会社の経営戦略 .....(eコード2-8- )

**【解説】**

- やさしいハードの話：DVDのはなし .....(eコード2-9- )

**【連載】**

- インタラクティブ・エッセイ：プライバシーとセキュリティ .....(eコード2-10- )  
放送と情報処理：放送のデジタル化と情報処理 .....(eコード2-11- )  
コンピュータと通信：デジタル映像の客観品質評価 .....(eコード2-12- )  
ソフトウェア新時代：インターネット時代のソフトウェア開発戦略 .....(eコード2-13- )

**【コラム】**

- 現代・コンピュータ市場：西暦2000年問題の移り変わり .....(eコード2-14- )  
情報セキュリティ歳時記：何を何から守るのか? .....(eコード2-15- )  
情報技術の新時代に向けて：大学のAccreditationについて .....(eコード2-16- )  
本当のインターネットをめざして：インターネットとはなにか .....(eコード2-17- )  
IPネットワーク革命：急展開する通信インフラのIP化 .....(eコード2-18- )

**【道しるべ】**

- 機械翻訳技術とその適用 .....(eコード2-19- )

3. 特に興味を持ってお読みになった記事・著者への質問・取り上げて欲しいテーマなどをお書きください。(eコード3)  
また今月も「道しるべ」に取り上げてほしいテーマを募集しています。

4. あなたのご意見は「会員の広場」に掲載される場合があります。その場合、  
a. 実名可(氏名のみ掲載) b. 匿名希望 .....(eコード4- )

5. (a) ご氏名 (eコード5-1)

(b) ご所属 (eコード5-2)

Tel ( ) -

■ 編集室 ■

特集の企画が足りないというので、思い切って自分の専門である自然言語処理の特集を企画することにしました。思い切ってというのは、当学会誌では、「計算言語学（'86）」「自然言語処理（'89）」「自然言語処理技術の最近の動向（'92）」「自然言語処理技術の応用（'93）」というすばらしい特集が組まれており、私自身もそれらの特集を読んで自然言語処理研究者のはしくれとなることができたので、それらに匹敵するような企画が立てられるかどうか不安だったからです。

そこで、従来の特集とは趣を変えて専門家でない読者に自然言語処理の最先端の雰囲気伝えるのを目標としました。そのため著者の方々にいろいろと無理をお願いしています。自然言語処理の専門家の方々には若干もの足りなかつたかもしれません。自然言語処理というのはある程度言語学に関する知識を必要とするため、他分野の方からは分かりにくいと思われがちですが、今回の特集でいろいろな応用があることを知っていただけたらと思います。

最後になりましたが、お忙しいのに快く執筆を引き受けていただきました著者の方々、タイトなスケジュールの中でいろいろと無理を聞いていただいた事務局の後路啓子さんに感謝いたします。  
(中野幹生、那須川哲哉/本特集エディタ)

「デジタル」であろうか「デジタル」であろうか。放送と情報処理の連載を始めるにあたって、はたと迷ってしまった。原稿執筆案内によると「用語は原則として『情報処理ハンドブック』を参考とする」とある。それなら「デジタル」である。しかし、世の中（あるWWW検索エンジンでの検索結果の中）では、「デジタル放送」が580件に対して、「デジタル放送」は4606件。我が情報処理学会は世の中に遅れているのか、と心配になる。でも、執筆案内は執筆案内。一応、今回は「デジタル」と決める。しかし、今後、「デジタル」を使う著者が増えることは目に見えている。学会の表記基準を世の中に合わせて「デジタル」に変更する時期にきているのではないだろうか。

(江原暉将/「放送と情報処理」エディタ)

次号（5月号）予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

「特集」西暦2000年問題

我が国における西暦2000年問題対応の現状/西暦2000年問題の技術的課題と対策/西暦2000年問題の法務的課題と対策/米国における西暦2000年問題/西暦2000年問題に関するリソース

情報処理最前線

デジタルコンテンツ流通システムの基礎技術と最新実務システム例 ..... 申吉 浩 他  
ここまで来たMPEG実用化技術 ..... 今出宅哉

事例

美術品預託販売事業におけるデジタルアーカイブシステムについて ..... 荻原雄二  
トップインタビュー

これからのデジタルコンテンツ事業の可能性と情報システムへの期待 ..... 小森雅夫 他

解説

インターネットのための音声処理技術 ..... 大室 伸 他  
「顧客満足」時代の情報システムSFA ..... 永田守男  
やさしいハードの話 ..... 白井 貢  
連載解説：ここまで来たワークフロー管理システム 3. ワークフロー製品の実際 ..... 速水治夫 他

道しるべ

組込みシステムの設計技術とその研究 ..... 安浦寛人 他

連載

インタラクティブ・エッセイ/携帯電話の科学/コンピュータと通信/放送と情報処理

コラム

IPネットワーク革命/現代・コンピュータ市場/情報技術の新時代に向けて/情報セキュリティ歳時記/  
本当のインターネットをめざして

事務局本部

〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F  
Tel(03)5484-3535 Fax(03)5484-3534  
URL-http://www.ipsj.or.jp/

郵便振替口座 00150-4-83484  
銀行振込（いずれも普通預金口座）  
第一勧業銀行虎ノ門支店 1013945  
東京三菱銀行虎ノ門公務部 0000608  
名義人 社団法人 情報処理学会

規格部

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館308-3  
Tel(03)3431-2808 Fax(03)3431-6493  
E-mail:standards@itscj.ipsj.or.jp

支部

北海道/東北/東海/北陸/関西/中国/四国/九州

複写される方に

〔R〕<学術著作権協会依託>

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、著作権者から複写権等の委託を受けている次の団体から許諾を受けて下さい。なお、著作物の転載・翻訳等複写以外の許諾は、直接当学会へご連絡下さい。

〒170-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル3F  
学術著作権協会 Tel/Fax(03)3475-5618

ただし、アメリカ合衆国における複写については、下記のIn the USAに記載の所へご照会ください。

Notice about Photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization, which has been delegated for copyright for clearance by the copyright owner of this publication. Except in the USA

Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC)  
41-6 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052, Japan  
Tel/Fax: 81-3-3475-5618

In the USA

The Copyright Clearance Center, Inc. (CCC)  
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923, USA  
Phone: (978)750-8400 Fax: (978)750-4744



## 40巻4号掲載広告目次<五十音順>

イムカ	前付7上
岩波書店	表2対向
インタフェース	表3
オーム社	表4
科学技術振興事業団	前付7下
共立出版	前付3
近代科学社	前付2下
サイエンス社	前付5
昭晃堂	前付4下

数理システム	前付9
ソフトウェア工学研究財団	表2
ソフト・リサーチ・センター	前付2上
トライテック	前付6下
日本電子化辞書研究所	前付最終
培風館	前付4上
メカトロシステムズ	目次前上
森北出版	前付6上

### ◆広告料金表

掲載場所	色	スペース	料金(円)
表紙2	4	1	330,000
表紙3	4	1	275,000
表紙4	4	1	385,000
表2対向	4	1	300,000
前付	4	1	275,000
前付	2	1	165,000
前付	1	1	135,000
前付	1	1/2	80,000
前付最終	1	1	148,000
目次前	1	1	148,000
差込み (A判70.5kg未満)		1丁	275,000
差込み (A判70.5kg～86.5kg)		1丁	350,000

### ◆体裁

判型	A4判
発行部数	35,000部
発行日	毎月15日
印刷方法	オフセット

### ◆広告原稿

申込締切日	前月10日
原稿締切日	前月20日
原稿寸法	1P 天地260mm×左右180mm
	1/2P 天地125mm×左右180mm
原稿形態	ポジフィルム

\*上記料金には、消費税は含まれておりません。断切広告は上記料金の10%増です。

\*広告は、コート紙を使用して印刷いたします。

\*表紙4のサイズは、天地260mm×左右180mmです。

### ◆広告申込先/カタログ・資料請求先

(社) 情報処理学会 会誌編集担当 〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F  
E-mail:editj@ipsj.or.jp Tel(03)5484-3535 Fax(03)5484-3534

「情報処理」カタログ・資料請求用紙		Vol.40 No.4	
掲載広告のカタログ・資料をご希望の方はこの用紙をFAXするか、またはE-mailでご請求ください。			
<input type="checkbox"/> イムカ <input type="checkbox"/> 岩波書店 <input type="checkbox"/> インタフェース <input type="checkbox"/> オーム社 <input type="checkbox"/> 科学技術振興事業団 <input type="checkbox"/> 共立出版 <input type="checkbox"/> 近代科学社 <input type="checkbox"/> サイエンス社 <input type="checkbox"/> 昭晃堂		<input type="checkbox"/> 数理システム <input type="checkbox"/> ソフトウェア工学研究財団 <input type="checkbox"/> ソフト・リサーチ・センター <input type="checkbox"/> トライテック <input type="checkbox"/> 日本電子化辞書研究所 <input type="checkbox"/> 培風館 <input type="checkbox"/> メカトロシステムズ <input type="checkbox"/> 森北出版	
勤務先/学校名 部課/学科			
所在地			
ご芳名	年齢	電話	
あなたの勤務先に該当するものに○印を			
<業種> 1.コンピュータ製造業 2.電気通信関係製造業 3.通信関係製造業 4.ソフトウェア業 5.官公庁 6.学校 7.その他 <職種> 1.研究・開発 2.SE・プログラマ 3.製造・生産 4.企画・調査 5.営業販売 6.総務・経理 7.会社役員 8.その他			